

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その1)

施策体系コード	5-4-1	5-4-3	事業名	新たな秋のイベント事業
担当	観光文化局観光コンベンション部観光企画課 佐々木・藤巻 TEL211-2376			
全体計画				
事業内容	札幌の観光におけるさらなる魅力づくりを目指し、大型のイベントが少ない秋の集客増を図るため、大通公園において新たな集客イベントを実施する。 当イベントは、「食」をツールとして北海道・札幌の情報発信を行う。また、大人から子どもまでが楽しめる場の提供として、歌や踊りなどを交えた参加型事業などを検討し、新たな賑わいを創出していく。 事業内容については、市民、関連団体、関連業種等から各種意見を聴取したものを基に素案を作成し、準備委員会組織や実行委員会を設立し、観光関連企業を含む多くの議論を重ね、検討していく。また、将来的な展開として、事業規模を拡大し、狸小路を含めた大通周辺商店街の協力を得ながら都心の賑わいを創出し、創成川等まで拡がりのある事業展開を目標とする。		＜年度別の事業内容＞	
			19年度……事業企画案策定 20年度……さっぽろオータムフェスト2008実施 21年度……さっぽろオータムフェスト2009実施 22年度・22年度まで、大通公園において、事業の充実及び拡大を目指す。	
事業内容	平成19年度事業内容(決算)		平成20年度事業内容(決算)	
	<p>当事業の平成20年度実施に向け、事業企画案を策定した。策定にあたり、市民を始め、学生団体や観光関連団体などと懇談会を実施し、市民意見や民間のノウハウを反映させたものとした。また、平成19年11月には、市内観光関連の各団体を中心とした100名規模のシンポジウムを開催し、策定した企画案を基に更なる意見交換を行い、企画の精度を向上させた。 イベント実施を計画するにあたり、概要のPRやスポンサーの確保のため、セールスツールとなる概要カタログを制作した。 平成19年10月には、当事業実施のための準備組織として「(仮称)さっぽろ秋まつり」準備委員会を立ち上げ、その組織をベースに平成20年3月には「さっぽろオータムフェスト」実行委員会を設置した。</p> <p>○「さっぽろ秋まつりシンポジウム」開催負担金 1,300千円 意見聴取の取組の一環として、観光関連事業者とのシンポジウムを開催した。新規イベントの検討をする中で、市内観光業界トップ出席による意見交換や、市長及び市幹部によるトップセールスの場として、協賛・スポンサーについて、個別に企業トップと会談し、協力要請を行う場とした。</p> <p>○「新たな秋のイベント事業」企画書制作業務 1,155千円 協賛を依頼する企業や実行委員会への参加を依頼する企業、協力を依頼する団体等への説明(セールス)を目的とした企画書の作成。</p>		<p>《事業概要》 名称 さっぽろオータムフェスト2008 会場 大通公園5丁目～8丁目 日程 平成20年9月19日(金)～10月5日(日) 内容 「北海道・札幌の食」をテーマに、道内市町村や民間事業者と連携して、旬の食材やご当地グルメを一堂に取り揃え、大通公園にて初開催した。北海道全体の活性化に貢献することを目的とした当フェストは、目標来場者数の60万人を上回る72万4千人の市民や観光客を集めた。</p> <p>《実行委員会事業費》 【収入】 さっぽろオータムフェスト運営負担金(札幌市)……20,000千円 その他協賛収入等(協賛企業等)……41,977千円 【支出】 実行委員会事務的経費……23,704千円 各会場運営経費……36,955千円 【繰越金】 1,318千円(決算報告書作成等に充てる)</p>	
事業内容	平成21年度事業内容(決算)		平成22年度事業内容(予算)	
	<p>《事業概要》 名称 さっぽろオータムフェスト2009 会場 大通公園4丁目～8丁目 日程 平成21年9月18日(金)～10月4日(日) 内容 「北海道・札幌の食」をテーマに、道内市町村や民間事業者と連携して、旬の食材やご当地グルメを一堂に取り揃え、大通公園にて開催した。今回は、新たに4丁目会場を開設した。北海道全体の活性化に貢献することを目的とした当フェストは、目標来場者数の80万人を上回る130万4千人の市民や観光客を集めた。</p> <p>《実行委員会事業費》 【収入】 負担金(札幌市)……30,000千円 負担金(市町村)……26,664千円 補助金(北海道)……10,000千円 その他協賛収入等(協賛企業等)……11,965千円 【支出】 実行委員会事務的経費……13,296千円 各会場運営経費……64,930千円 【繰越金】 403千円(決算報告書作成等に充てる)</p>		<p>《事業概要》 名称 さっぽろオータムフェスト2010 会場 大通公園4丁目～8丁目 日程 平成22年9月17日(金)～10月3日(日) 内容 基本コンセプトは、さっぽろオータムフェスト2009を踏襲し、大通公園の4～8丁目にて実施する。また、円山、すすきのをはじめ、市内各地域との連携をさらに強化し、まち全体の賑わいを創出するイベントにする。</p> <p>《実行委員会事業費》 【収入】 負担金(札幌市)……30,000千円 負担金(市町村)……25,090千円 補助金(北海道)……10,000千円 その他協賛収入等(協賛企業等)……5,910千円 【支出】 実行委員会事務的経費……13,200千円 各会場運営経費……57,800千円</p>	
事業数等				

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その2)

施策体系コード	5-4-1	5-4-3		事業名	新たな秋のイベント事業		
達成目標の状況							
項目	18年度末 (現状)	19年度末 (実績)	20年度末 (実績)	21年度末 (実績)	22年度末 (予定)	22年度末 (目標)	
観客数	-	-	72万4千人	130万4千人	80万人	80万人	
市民・企業等との協働の状況(市民・企業等の参加、支援、協力の状況)							
<p>■市民との連携、市民参加 企画立案段階から、市民や学生及び観光関連団体である、旅客会社や旅行代理店、ホテル業界などとの懇談を実施し、当事業の核となるコンセプトについて、多くの意見聴取を行ってきた。</p> <p>■企業等との連携・協働 [資金協力] 各会場の管理運営を民間企業へ委託することにより、会場運営にあたり、民間事業者のノウハウを活かした事業展開が期待できる。また、運営費確保のためのスポンサー獲得など、運営経費確保のため協力を得ている。将来的に、本事業の拡大発展により、更なる事業内容の充実が図られることが期待できる。 [人材協力] 民間企業が管理運営にあたることにより、民間ノウハウを活用した優れた人材や技術が、活かされることが期待できる。 [情報協力] 観光関連団体である旅客会社や旅行代理店などの協力により、企画段階からの多くの意見、提案をいただいている。 [その他の協力](該当なし)</p> <p>■市民・企業等が参加しやすい環境づくり (該当なし)</p>							
評価(成果)			課題				
<p>これまで練り上げた企画を初めてイベントとして形にし、若者から家族連れや年配の方まで幅広い年代が来場し、落ち着いた大人の雰囲気があるイベントとして好評を博した。</p>			<p>21年度で2回目の事業であることから、まだまだイベントの知名度が低く、告知・宣伝の展開を大量に行う必要があり、広告費用が高額となる。また、実績が乏しいことから、道外からの観光客の入込みが少なく、加えて昨今の経済環境の急激な悪化等により、出展者の確保やスポンサーの獲得が難しく、事業費の確保も課題である。また、会期中は、夕方以降に気温が急激に下がり、屋外で長時間過ごすのが厳しく、今後の寒さ対策が必要となる。</p>				
今後の事業の予定・方向							
<p>22年度までは、大通公園のみの開催とし、内容の充実を図るが、23年度以降は、新たに供用が開始される「創成川広場」をはじめとした、都心部全体を活用したにぎわいへと事業の拡大を行い、更なる地域経済の活性化を図る。</p>							

平成22年度第2次札幌新まちづくり計画事業進行調書(その3) (単位:千円)

施策体系コード		5-4-1	5-4-3	事業名	新たな秋のイベント事業		
事業費の推移							
項目		19年度	20年度	21年度	22年度	計	
計画	事業費	2,500	43,500	49,000	54,000	149,000	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0	0	0	
	市の債	0	0	0	0	0	
	その他の	0	30,000	35,000	40,000	105,000	
一般財源	2,500	13,500	14,000	14,000	44,000		
予算	事業費	2,500	20,000	30,000	30,000	82,500	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0	0	0	
	市の債	0	0	0	0	0	
	その他の	0	0	0	0	0	
一般財源	2,500	20,000	30,000	30,000	82,500		
実績	事業費	2,455	20,000	30,000	—	52,455	
	財源内訳						
	国・道支出金	0	0	0		0	
	市の債	0	0	0		0	
	その他の	0	0	0		0	
一般財源	2,455	20,000	30,000		52,455		
事業費の進捗率		(H19実績+H20実績+H21実績+H22予算事業費) / (計画事業費)				55.3%	
計画との差異(予算・実績・事業内容・規模・時期等)							
《全体》							
計画では直営方式を想定して事業費を見込んでいたが、実際の事業実施にあたっては、実行委員会方式を採用したことによりその他協賛収入等は計上しなくなった。このため計画事業費と予算事業費に差異が生じている。ただし、これは事業の実施方法に変更があっただけであり、実施内容には変更はない。							
[19年度]							
[20年度]							
[21年度]							
[22年度]							